

拠出金名: 日本・SAARC特別基金等拠出金

国際機関等名	南アジア地域協力連合 (英文名称・略称) South Asian Association for Regional Cooperation (SAARC)				
種 別	国連(事務局)	国連(基金・計画)	国連専門機関	その他	
所管官庁担当局課名	外務省南部アジア部南西アジア課				
最近3年間の我が国支払額及びODA率					
単 位	邦 貨 (千 円)	外貨1 (千ドル)	外貨2	レ ー ト	ODA率(%)
平成21年度	4,893	48		1米ドル = 100円	100
平成20年度	5,650	50		1米ドル = 113円	100
平成19年度	1,160	10		1米ドル = 116円	100
当該拠出金の目的・用途等	SAARC諸国間の経済、社会、文化等の分野での交流促進による域内協力の推進及び日本とSAARCとの間での交流促進				
拠出上位5ヶ国・地域・機関等 (2009年のもの)				国際機関等の財政 (2009年度決算)	
	国 名	金額 (千ドル)	拠出率 (%)	当該年度の収入(注1) 254,250米ドル	
1位	日本	50	100.0	当該年度の支出 254,250米ドル	
2位				次年度への繰越 0	
3位				会計検査機関名	
4位				SAARC議長国、次期議長国、SAARC事務局(注2)	
5位					
当該機関等に対する我が国としての評価 (合理化、機能強化のための改革が行われているか、当該機関等の政策に対する我が国の意見の反映度を含む)					
<p>南アジア各国の信頼醸成、協力関係構築を目指すSAARCの取組を支援することは、我が国の対南アジア政策における重層的アプローチの一環として極めて有効との考えに基づき、1990年の海部総理(当時)の南アジア諸国訪問時にSAARCへの支援を表明。1993年に、南アジア諸国の要請を受け、支援表明の具体化として、特別基金を設立。同基金はSAARCにおける唯一の域外国出資による基金。我が国外交にとって、南アジア地域は安全保障及び経済上、益々重要な地域となっており、限定的な範囲に留まっているSAARC加盟国間の協力関係を前に進めるべく、域内各国の経済・社会分野における協力プロジェクトを進めることにより、各国間の信頼醸成を図ることが極めて重要。これまで行われた専門家会合やシンポジウム等各種会合や委託調査を通じて、専門家交流が促進され、加盟国共通の課題に対する認識の共有や協力が進んだ。</p> <p>このように、日本がSAARC諸国の共通の課題についてSAARC諸国が一堂に会する討論の場を提供することから、目に見える形で日本の支援が実施されるので、SAARC諸国の専門家や有識者、政務関係者をはじめとするSAARC諸国での認知度も高い。平成22年度には、日本及びSAARC8カ国共同でエネルギー・シンポジウムを開催予定。</p>					
邦人職員数	0人	当該機関全体の職員数	0人		
うち幹部以上	うち 0人	及び邦人職員が占める率	0%		
邦人職員が占めている幹部ポスト					
ポストの名称		職 員 氏 名		備 考	
当該機関重要ポストへの邦人職員送り込みについての具体的な計画					
なし					

(注1) 前年度繰越分を含む。

(注2) 会計検査については、各年度におけるSAARC議長国・次期議長国の政府代表(会計院局長など)及びSAARC事務局長の3者による合同監査チーム(Joint Audit Team)によって実施。